第20回 健康セミナーを開催します

3月14日　午前9時30分～　受付：研修棟3階
予約要（定員50名）　参加無料　是非ご参加ください

参加無料

内容
- 身体も脳も健康に！知って得する脳のひみつ
  脳神経外科　荒木明浩　医師
- 食から考える脳の健康
  ～身体の健康と同じくらい気にして欲しい脳の健康
  田川管理栄養士
- 健康相談、栄養相談、お薬の相談 等
- 脳年齢チェック 等

申込期間　2026年1月5日(月)～3月6日(金)

なお、本セミナーは**完全予約制**となっておりますので、当院健診センター(TEL：059-375-1300)にお問い合わせ下さい。

日本医療マネジメント学会

10月11日（土）に第18回日本医療マネジメント学会三重支部総会・学術集会が三重中央医療センターにて開催されました。院長　荒木朋浩が学術大会長を務め、病院淘汰時代―いかに持続的に地域医療を守るか？―をメインテーマに当院から病院外来看護師、薬剤管理課、栄養管理課より3演題発表しました。

第17回 中部放射線医療技術学術大会CCRT2025

第17回中部放射線医療技術学術大会 CCRT2025が11月15日、16日に開催されました。本大会には診療放射線技師も参加し、運営や座長、講師を担当しました。診療放射線技師に求められる知識や技術は、医療の進歩とともに日々高まっています。栗島翔平技師は学生に向けて脳の血管のしくみを解説し、専門性の向上と次世代育成に貢献しました。

鈴鹿シティマラソン

令和7年12月14日（日）第28回鈴鹿シティマラソンが鈴鹿サーキットにて行われました。当院から医科学相談コーナーと救護班に専門医師をはじめ多くのスタッフを派遣し走者のサポートを行いました。

病院の理念	病院の方針
生命への奉仕	▶ 個人の尊厳を守ります ▶ 地域の基幹病院として医療機関と連携し健康の増進に貢献します ▶ 災害時に救援活動を行います ▶ チーム医療を推進し安全で高度な医療を提供します ▶ 将来を担う有能な医療従事者の育成に努めます ▶ 働きやすく健全な病院運営に努めます

ほっとsmile 第24回 三重県上肢外科研修会

10月26日（日）、当院にて「第24回三重県上肢外科研修会」を開催しました。県内外の医師、理学療法士、作業療法士の皆さまにご参加いただき、講義やスプリントの実技を通して上肢疾患に対する知識と技術を深める有意義な研修会となりました。当院の強みであるスプリント作製の方法を共有し、他施設との交流も活発に行われました。ご参加くださいました皆さまに心より感謝申し上げます。

鈴鹿回生病院
公式 LINE
@588uhbko

編集後記

皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等がございましたら、広報委員会までお寄せください。

鈴鹿回生病院　広報委員会
〒513-0836　三重県鈴鹿市国府町112番地の1
TEL059-375-1212 mail:info@kaiseihp.com

地域医療のコミュニケーション誌

回生ニュース
Kaisei News

社会医療法人　峰和会

142号

2026.1月発行

発行／社会医療法人　峰和会
編集／鈴鹿回生病院
所在地／鈴鹿市国府町112番地の1
TEL／059-375-1212
FAX／059-375-1717
URL／http://www.kaiseihp.com
編集協力／TCKnagoya

社会医療法人 峰和会 理事長
院長
荒木　朋浩

謹賀新年 2026 午

新しい年を迎え、皆さまに心よりご挨拶申し上げます。日頃より鈴鹿回生病院の医療活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。地域の皆さま、そして日々連携くださっている開業医の先生方や関係機関の皆さまのお力添えのもと、私たちは一年を重ねるごとに少しずつ成長を続けることができました。2025 年は、社会全体が物価高や景気の不安定さのなかで歩んだ一年でした。医療の現場も例外ではなく、人材確保や医療費の抑制といった課題が続き、病院経営は依然として厳しい状況にあります。それでも私たちは、支えてくださる地域の皆さまへの感謝を忘れず、「地域のために何ができるか」を一つひとつ形にしてまいりました。

その思いのもと、2025 年には新型コロナ関連の補助金を地域に還元するかたちで、さまざまな整備を進めました。感染症にも対応できる陰圧室を備えた救急外来の増設では、安心して救急医療を受けられる体制を整えました。また、鈴鹿・亀山地域でもロボット支援手術が受けられるよう、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、地域にいながら高度な医療を受けられる環境を実現しました。

さらに、回復期リハビリテーション病棟を新たに開設し、急性期から在宅まで切れ目のない医療を提供できるようになりました。入院前から退院後までを支援する「患者支援センター」も開設し、患者さんやご家族が安心して療養生活を送れるよう、多職種が力を合わせて支えています。

こうした取り組みは、鈴鹿回生病院が地域の基幹病院として果たすべき責任の一つです。病病連携、病診連携を通じて、地域全体で一人ひとりの命と生活を守る。そのために私たちは、技術の進歩だけでなく、「人と人とのつながり」を何より大切にしています。

また、働く仲間の笑顔が病院の力になると信じ、職員の働きやすい環境づくりにも力を注いでいます。昨年は「女性が働きやすい医療機関」として認定を受け、現在は「三重とこわか健康経営カンパニー認定制度」にも申請中です。職員一人ひとりが健やかで、自分の仕事に誇りを持てる病院でありたいと考えています。

「鈴鹿回生病院を受診してよかった」「ここで働いてよかった」と感じていただけるよう 2026 年も、地域の皆さまの笑顔と健康を守るために、私たちは歩みを止めることなく進んでまいります。本年もどうぞ変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

鈴鹿回生病院
附属クリニック院長より
新年のご挨拶

心の通った
医療の提供を目指して

鈴鹿回生病院附属クリニック
院長　加藤　公

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は、米国のトランプ大統領による関税政策の影響で世界経済が混乱し、ウクライナや中東では戦火が絶えず、日本国内でも米価の高騰、夏の記録的猛暑、そして秋口からのクマによる人身被害の急増など深刻な社会問題が相次ぎました。コロナ禍という未曾有の災害を乗り越えた後も、天災・人災の報道が続き、不安を感じる日々が続いた一年だったように思います。医療界にまでその影響が及ばないことを、心より願うばかりです。しかしながら、そんな厳しい状況の中でも、明るい話題もありました。スポーツ界では大谷翔平選手の大活躍や女子ゴルフ日本人選手の国際舞台での躍進、そして世界中からの来場者が 2500 万人を超え大盛況だった大阪万博、10 月には日本初の女性首相の誕生、さらには日経平均株価が史上最高値を更新するなど希望を感じさせる出来事もありました。

さて、当クリニックにおきましては、昨年は大きな変化こそございませんでしたが、いくつかの点で皆様にご報告申し上げます。診療面では、常勤医師の退職に伴い、呼吸器外科の診察枠が減少し、ご不便をおかけしております。一方で、三重大学呼吸器外科より非常勤医師を迎え、外来診療を開始することができました。これまで通りの専門性を維持しつつ、診療体制の充実に努めております。設備面では、長年の懸案であった診察室の扉を、開き戸から引き戸へと改修を進めております。これまでのご不便に対し、心よりお詫び申し上げます。また、病院救急外来の増設工事に際しましては、騒音や病院との往来などでご迷惑をおかけしましたこと、重ねてお詫び申し上げます。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、元の水にあらず」

日本初の災害文学といわれる鴨長明『方丈記』の冒頭の一節です。天災も人災も、時が経てば乗り越えることができる一方で、次なる災いが訪れるものです。それらに対しては常に備え、万全の対策を講じなければなりません。コロナ禍は何とか乗り越えたと思っておりますが、次に訪れる新たな困難に対しても、恐れることなく、早い段階で芽を摘むことができるよう、日々努力を続けてまいります。

今年も、「ここに来て良かった」と思っていただけるクリニックであり続けることを目指し、笑顔と思いやりを大切にしながら、患者様一人ひとりに寄り添い、心の通った医療を提供できるよう、スタッフ一同精進してまいります。何卒、本年もよろしくお願い申し上げます。

病院薬剤師による
くすりと健康情報局
8 VOL

チーム医療の力で、“いつまでも歩ける”をサポート！

当院では、脆弱性（ぜいじゃくせい）骨折で入院された患者さんに対して、次に起こる骨折を予防するための取り組みである骨折リエゾンサービスを多職種チームで行なっています。
今回は、骨粗鬆症（こつそしょうしょう）と骨折リエゾンサービスについてご紹介します。

骨粗鬆症ってどんな病気？

骨粗鬆症とは、骨の強度が低下してもろくなり骨折しやすくなる病気です。骨粗鬆症は自覚症状がほとんどありませんが、問題となるのは脆弱性骨折です。脆弱性骨折は、立った状態からの転倒など、わずかな衝撃でも生じる骨折のことです。特に太ももの付け根や腰の骨折では、手術や長期間のリハビリが必要になることがあります。また、寝たきりになった場合は、介護が必要となり、健康寿命が短くなるといわれています。骨の強度が低下する要因としては、主に女性ホルモンであるエストロゲンの欠乏、加齢、運動不足などの生活習慣が考えられます。

骨折リエゾンサービスとは？

はじめて骨折を起こした患者さんに対して、次に起こる骨折（二次性骨折）を防ぐためのサポートを行う仕組みです。一度脆弱性骨折を起こすと二次性骨折の発生率が高くなるため、患者さん個々に合った適切な骨粗鬆症治療を行うことが重要です。すでに海外ではこのような多職種連携によるサービスが行われ、骨折発生率が低下し、医療費も少なくて済むことが報告されています。

多職種チームでしっかりサポート

当院では、骨粗鬆症マネージャー※が中心となって、医師、薬剤師、看護師、理学療法士、管理栄養士など多職種で連携し、検査、薬物療法、運動療法、栄養療法、基礎知識の教育など骨粗鬆症治療に参画しています。骨折を予防して元気で健康な毎日を過ごせるように、多職種チームでしっかりサポートします。気になられた方は、医師にご相談ください。

※骨粗鬆症マネージャーとは？
診療支援サービスの役割を担う骨粗鬆症に関する知識を有するメディカルスタッフ。当院の薬剤師 4 名が資格を取得しています。

筆者プロフィール
薬剤師　上林　愛
病棟薬剤業務を担当するとともに、骨粗鬆症と糖尿病のチーム医療にも従事。骨粗鬆症マネージャー、日本糖尿病療養指導士、日病薬病院薬学認定薬剤師。

参考文献:骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2025年版　日本版 二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス（FLS）クリニカルスタンダード

医食動源

5分間ストレッチ　肩関節の体操

今年度のテーマは「5分間ストレッチ」です。
お家でも出来る簡単なストレッチを紹介していきます。

理学療法士
橋本　果林

①肘を伸ばして、バンザイ
両手で棒（タオル）を肩幅くらいで持ちましょう
ゆっくりと呼吸をしながら、10 回繰り返しましょう

②肩回し運動
手を肩に置いて、肘で出来るだけ大きな円を描くようにして肩を回しましょう前回し・後ろ回し各５回程度

Point

- このストレッチは各３～５セット実施してください。
- お風呂後など、体が温まっている時にストレッチをすると効果的です。
- 痛みや辛さを感じない程度にしましょう。
- 呼吸を止めずに無理のない範囲でゆっくりと行いましょう。

発信@栄養管理室

管理栄養士
村上　清香

☆ポイント☆

米の重要性と炊き出しボランティアの善意を広める活動おこなう日として、兵庫県南部地震が起こった 1 月 17 日に「おむすびの日」として設定されました。
昼食はおむすびだけという方もみえますが、簡単なふりかけおむすびのみではタンパク質や食物繊維などの栄養が不足します。そこで完全栄養食品となるようなおむすびを考案しました。たくさん作って冷凍すればその都度つくる手間も省けます。是非お試し下さい。

おむすび３種

材料と作り方

～キャベツナむすび4個分～

ご飯	1 合分
キャベツ	200g
ツナコーン缶	1 缶
マヨネーズ	大さじ 1
鶏ガラスープ	小さじ 1.5

①キャベツをざく切りにし、湯につけて良く絞り、みじん切りにしてさらにしぼる(さっと湯がいても良い)
②炊けたご飯に①とツナコーン缶、マヨネーズ、鶏ガラスープを入れてよく混ぜ、にぎる

～カラアゲむすび1個分～

ご飯	100g
冷凍からあげ	1 個
のり	1 枚

①冷凍唐揚げを温める
②炊いたご飯に①を入れにぎり、のりを巻く

～トリゴボむすび9個分～

ご飯	2 合分
ごぼう	150g
人参	260g
まいたけ	100g
皮付き鶏もも肉	200g
めんつゆ（ストレートタイプのもの）	大さじ 3

①ゴボウと人参はスライサーで千切りにし、まいたけはバラす。鶏肉は一口大にカットする
②鍋にゴボウ、人参、マイタケ、鶏肉の順に並べ蓋をして蒸し焼きにする。
③炊けたご飯に②とめんつゆを入れ、よく混ぜ、にぎる

【栄養成分】1個分

	<キャベツナむすび 1 個分>	<カラアゲむすび 1 個分>	<トリゴボむすび 1 個分>
エネルギー	208kcal	210kcal	166kcal
たんぱく質	6.0g	6.0g	7.0g
脂質	5.1g	3.0g	1.5g
食物繊維量	2.6g	2.6g	3.2g
食塩相当量	1.2g	0.4g	1.5g

連携医療機関紹介

駒田医院

▲ 駒田雄一副院長

地域に根ざして五代――受け継がれる想い

明治25年に創業し、地域に寄り添い続ける駒田医院。今回は、副院長で5代目の駒田雄一先生にお話を伺いました。

駒田雄一先生は、平成20年3月に杏林大学医学部を卒業。名古屋大学で2年間の初期臨床研修を経て、同大学総合診療科にて後期研修を修了されました。在宅医療や小児科、がんセンターでの研修、緩和ケア、総合内科など、家庭医療に関する幅広い経験を積まれたそうです。
医師になる前からこのクリニックを継ぐことは決まっておられたのですが、現院長（ご尊父）から“継げ”と言われたことは一度もなかったとか。「医師への道は、自分が納得して覚悟して目指した道でした。子どものころから地域の方々に可愛がってもらい、今こうして患者さんとしてお会いできるのは感慨深いですね。」

歴代から受け継ぐ、変わらぬ姿勢

「相談しやすく、垣根の低いクリニックであること。そして、悩みを抱えて来られた方が最後には笑顔で帰っていけるような診療を提供すること」この理念は、歴代の院長から受け継がれてきた駒田医院の大切な想いです。
患者さんの多くは80～90代の方々で、糖尿病や高血圧といった生活習慣病、慢性腎不全、関節痛などの慢性疾患を抱えています。
現在、院長と副院長の2人体制で外来と訪問診療を行っており、午前は外来、午後（14時～18時）は訪問診療にあたっています。この地域では訪問診療のニーズが多く、外来に通えなくなった方や交通手段が限られる方も多いため、在宅での支援を続けています。

継続の力で地域医療を支える

2014年に副院長として就任してから10年。「30代はがむしゃらに働いてきました。今感じる課題は“継続性”です。医療サービスは続けてこそ価値がある。そのためには、人材と設備を整え、次の世代へとつなぐ体制づくりが必要です。」
コロナ禍ではオンライン診療も試みたそうですが、高齢の患者が多い地域ゆえに利用は少なかったとのこと。
「やはり、顔を合わせて話すことが安心につながると感じました。ただ、時代の流れに合わせた情報発信も大切です。ホームページや広報誌を通じて、地域に向けた発信にも力を入れていきたいと思います」。

“町の健康アドバイザー”として

「困ったとき、まず駒田医院に行こう――そう思ってもらえる場所でありたいですね」先生はそう語ります。
「『この症状、何科に行けばいいの?』という相談をよく受けます。必要に応じて専門医を紹介しますが、まずは何でも話してもらえる身近な存在でありたい。
医療が生活の邪魔をしてはいけないと思っています。町医者の役割は、病気を診るだけでなく“生活を支えること”。今の暮らしをできるだけ崩さずに続けられるよう、一緒に考えていくことが私たちの使命です。町医者として、まずはどんな相談でも受けとめ、当院で対応できない場合や精密検査が必要な際には、鈴鹿回生病院さんのような然るべき医療機関にご紹介します。どうぞ安心してご相談ください」
長い歴史を紡ぎながらも、時代に合わせて変化を恐れず、地域とともに歩み続ける駒田医院。「町医者」という言葉に込められたあたたかいまなざしが、地域の安心を支えています。今後も、地域に寄り添う「町医者」としての活躍が期待されます。

DATA

TEL 059-265-2016

住所
津市芸濃町林190-2

診療科目
●内科 ●小児科●消化器科
●リハビリテーション科

診療時間
午前／9時00分～12時00分
午後／14時00分～18時00分

	月	火	水	木	金	土	日
午　前	○	○	○	○	○	○	×
午　後	往診･訪問診療のみ					×	×

外来休診日
土曜午後･日曜･祝日
お盆、年末年始特別休診日あり

https://komada-clinic.com/